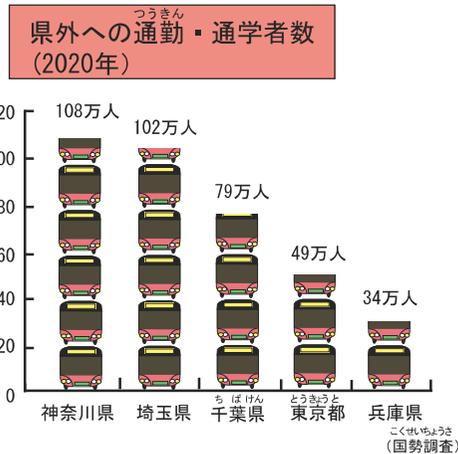
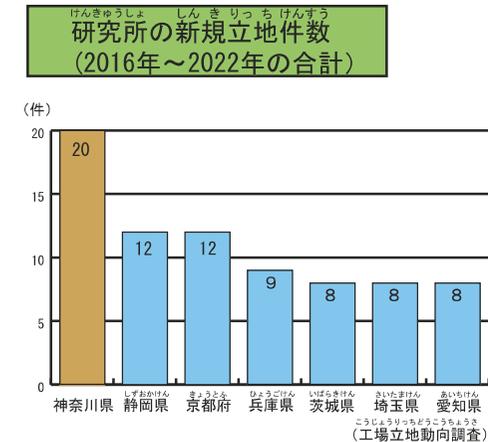


# 3章 神奈川県をもっと知ろう

## 1 神奈川県の日本一

神奈川県のさまざまな「日本一」をしょうかいします。



**Jリーグのチーム数 (2025年3月げんざい)**

5チーム

川崎フロンターレ、横浜FC、横浜F・マリノス、湘南ベルマーレ、SC相模原

4チーム

1位 神奈川県

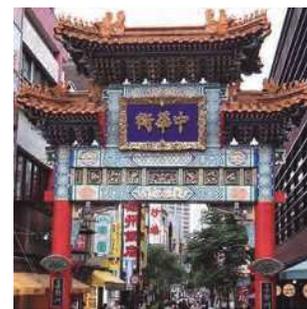
2位 静岡県

神奈川県はほかにも日本一があるかな。みんなも探してみよう！



**横浜中華街 (横浜市)**

200をこえる料理店がならぶ日本一大きな中華街です。中華料理をめあてに全国から観光客がおとずれます。



**鉄げた (南足柄市)**

大雄山最乗寺 (道了尊) には、世界一の大きさの鉄でできたげたがあります。まつられている天狗さんのはきものです。



「はじめて」はほかにももっとあるんだって。



## 2 神奈川県にある日本のはじめて

神奈川県にある「日本初」のものをしょうかいします。

### 横浜はじめて物語

1859年に横浜が開港されると、たくさんの外国人が横浜にやってきて、西洋の文化を伝えました。横浜では、日本で初めてつくられたり売られたりしたものがたくさんあります。

- 横浜から全国へ… (例)**
- ホテル (1860年)
  - 写真館 (1862年)
  - アイスクリーム (1869年)
  - ビール (1870年)
  - 日刊新聞 (1871年)
  - 鉄道 (1872年)
  - ガス灯 (1872年)
  - せっけん (1873年)
  - テニス (1878年)
  - 近代水道 (1887年)



明治時代のはじめ(1870年代)にたてられたホテル (横浜開港資料館所蔵)



◀ 鉄道と横浜港の様子 (横浜往返鉄道蒸気車ヨリ海上之図三代広重画) (横浜開港資料館所蔵)



横浜開港資料館

### 観音埼灯台 (横須賀市)

1869年に完成した日本最初の西洋式灯台です。今の灯台は3代目です。東京湾の船の安全を守っています。



### 3 未来をひらく神奈川県の科学ぎじゅつ

わたしたちの生活をゆたかにするために、科学ぎじゅつは大きな役割を果たしています。神奈川県には、新しいぎじゅつの開発をめざす研究所がたくさんあり、企業や大学などと協力しあって、いろいろな研究を行っています。

#### 神奈川にある新しい科学ぎじゅつの研究しせつ

宇宙航空研究開発機構(JAXA)相模原キャンパス(相模原市)

JAXA相模原キャンパスでは、太陽や星の観測や分析を人工衛星「ひので」や「みお」などを使って行うなど最先端の宇宙科学を研究・開発しています。また、げんざいでは

小惑星探査機「はやぶさ2」が「リュウグウ」のすなつぶを地球にとどけ、次の目的地に向かって



「はやぶさ2」(イメージ)(イラスト:池下章裕)

理化学研究所横浜キャンパス(横浜市)

理化学研究所横浜キャンパスでは、生命や環境に関する研究をしています。これらの研究は、ヒトが病気になるしくみの解明や、植物や微生物の力を利用した環境にやさしいものづくりにつながっています。



理化学研究所横浜キャンパス



ロボットを開発している企業にお話を聞いたよ。どのようなロボットが作られているのかな?



海洋研究開発機構(JAMSTEC)(本部:横須賀市)

JAMSTECで活やくしている「ちきゅう」は、世界一深く海の底をほることができ科学掘削船です。深い海の底をほって、海底下の生命や地しんが起きるしくみなどを調べています。



### かながわで生まれたロボット

人口減少や超高齢社会をむかえ、県ではさまざまな課題に立ち向かっていくため、みなさんの生活をささえるロボットを開発したり、広めたりする取組をしています。

#### コミュニケーションロボット『パルロ』

高れい者の話し相手となり、歌や体そう、クイズ等を通じて、すこやかな生活のサポートを行うコミュニケーションロボットです。



#### 災害救助対応ドローン

水にぬれるとふくらむうきわを運んで投げ入れる機能や、きけんを知らせるスピーカーやカメラなどをそなえており、これまでの方法よりももっと安全にすばやく救助活動を行うことができます。

県では、子どもたちが科学に親しむことができるように、県内の研究しせつや大学などで行われる、さまざまな実験教室や工作教室などを、「サイエンスかながわ」としてしょうかいしています。みなさんもぜひ参加してみてください。

4

神奈川県ゆかりの人

(1) 武士の世の中をつくった源頼朝

今からおよそ900年前、中央(今の京と都)の貴族政治がみだれ、争いが多くなると、農民たちの中には刀や弓などを武器に、田や畑を守る人たちがあられ、強い力をもつようになりました。その人たちは、武士とよばれていましたが、その中でも特に強い力を持っていたのが源氏と平氏でした。



伝源頼朝坐像 (東京国立博物館所蔵) Image:TNM Image Archives

平氏によって伊豆(今の静岡県)に流された源頼朝(1147年~1199年)は、源氏に味方する東国の武士団を集め、1185年に平氏をほろぼし、1192年に征夷大將軍に任じられました。

源頼朝が幕府をつくった鎌倉は、鶴岡八幡宮を中心に若宮大路など道が整えられ、たくさんの寺が建てられて、日本の政治の中心となりました。また、平氏や源氏によりはじまった武士による世の中は、こののち約700年間続きました。



げんざいの鎌倉市街



鶴岡八幡宮



鶴岡八幡宮

(2) わが国を代表する戦国大名の北条早雲(伊勢宗瑞※)

今からおよそ500年前は、全国各地で大名とよばれる有力な武士がそれぞれ勢力をふるい、争っていた時代です。戦いが多かったことから、のちにその時代を戦国時代とよんでいます。げんざいの神奈川県の地域で大きな勢力をもった大名が北条早雲(1456?年~1519年)です。

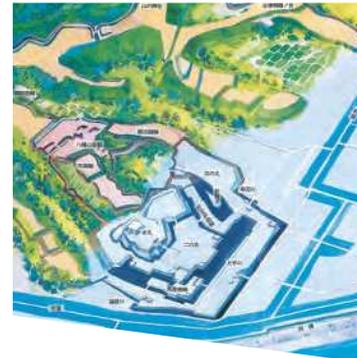


北条早雲像 (早雲寺所蔵)

北条早雲は、姉がとついでいた駿河(今の静岡県)の今川氏をたよって京都からくだり、勢力を強め、伊豆をうばいました。

やがて早雲は大森氏に代わって小田原城に入り、さらに三浦半島の三浦氏をほろぼして相模の国をおさめるようになりました。早雲は20年で伊豆と相模の国を支配し、そののち北条氏は、小田原城を拠点として5代約100年にわたって伊豆、相模、武蔵の国をおさめ、今の関東地方の北部あたりまで勢力をのばしました。

※北条早雲は死後に広まった名前で、生きていたときは伊勢宗瑞とよばれていました。



戦国時代の小田原城(主な部分)

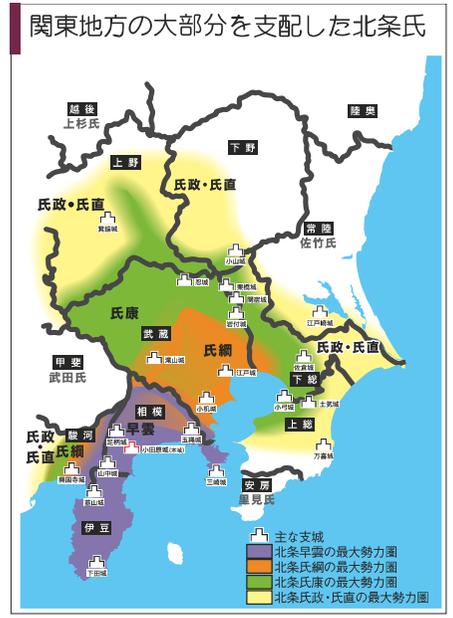
※ 緑色は自然の地形 (歴史群像・名城シリーズ©小田原城)



げんざいの小田原城天守閣



小田原城



(3) 農民のためにつくした二宮尊徳(金次郎)

今からおよそ200年前、小田原を流れる酒匂川が大洪水となり、多くの被害が出ました。当時、少年だった二宮尊徳(1787年～1856年:当時の名前は二宮金次郎)の家の田畑も流されてしまいました。



二宮尊徳坐像(報徳博物館所蔵)

尊徳の両親は、その後の苦勞であいついでなくなりましたが、尊徳は、一生けんめいに働き、まずしかった家を立派にし、少しでも村のためになるように工夫と努力を重ねました。



二宮尊徳生家(小田原市栢山)

二宮尊徳は、小田原だけでなく、全国のまずしい農村をゆたかな農村にするための仕事に一生をささげ、農民のためにつくしました。

このほかにも、ゆたかな農村にするために、多くの人たちによって、県内にたくさんの新田が開発されました。



新田という地名で今でも残っているね。



吉田新田ができるまで

吉田新田は、商人である吉田勘兵衛が中心となって、当時は海だった関内駅の西側のあたりをうめ立ててつくられました。

吉田新田の工事は今からおよそ370年前の1656年に始まりましたが、大雨で流され、一度失敗してしまいました。しかし、あきらめずに二度目の工事を1659年に行い、1667年に完成しました。

吉田新田はつりがねのような形をしているのが特徴です。広さは約35万坪で横浜スタジアムが44個はいるくらい大きな新田です。



吉田新田開墾前図: 吉田興産株式会社提供 横浜市歴史博物館提供

うめ立て前



吉田新田開墾図: 吉田興産株式会社提供 横浜市歴史博物館提供

うめ立て後

どうやってつくるの?

当時の資料がなく、つくり方については分からないことも多いです。しかし、当時の川や海の様子から、水の力を受けやすいつりがねのてっぺんに最初にじょう夫なつつみ(水があふれないようにきずいた土手)をつくり、そのあと下につつみをのばしていったと考えられます。



つつみをつくる様子 吉田新田堤普請作業風景想定模型 横浜市歴史博物館提供

材料となる土やすなは近くのがけを切りくずして船で運びました。また、石がきに使った石は千葉県南部や伊豆半島から運ばれました。

工事には一日で数百人もの人が参加したと言われています。



横浜市  
(横浜の紙芝居『この海を田に—吉田新田の話』)

(4) 浦賀にペリーあらわれる

1853年に見なれない大きな外国船が4せき、浦賀(横須賀)沖にあらわれ、人々をおどろかせました。それは、アメリカ合衆国の使節、ペリーのひきいる艦隊でした。日本はそれまで「鎖国」といって、いくつかの国としかつきあいをせず、外国人は長崎以外には住めませんでした。



ペリーの像 (横浜開港資料館所蔵)

ペリーはアメリカ大統領の手紙を幕府に渡し、「鎖国」をやめることを強くせまりました。幕府はことわりきれず、次の年に横浜で話し合い、日米和親条約をむすび、日本に来たアメリカの船に食料や水を渡すことにしました。さらに、1858年に日米修好通商条約をむすび、その後オランダ、ロシア、イギリス、フランスとも同じような条約をむすびました。今まで小さな村にすぎなかった横浜に港やまちがつくられ、外国人も住むようになりました。



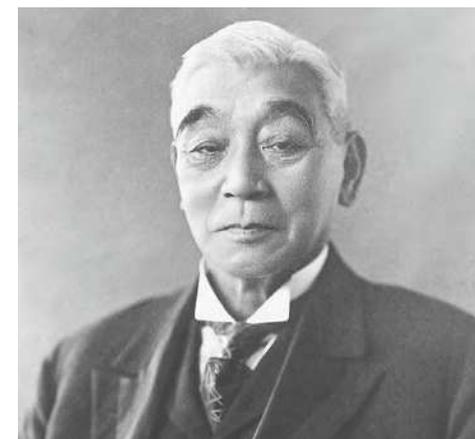
日本人によってさまざまにえがかれたペリーの像 (神奈川県立歴史博物館所蔵)



ペリー・将兵の横浜上陸図(横浜開港資料館所蔵)

(5) 京浜工業地帯のもとをきずいた浅野總一郎

富山県に生まれた浅野總一郎は、東京や横浜に来て、いろいろな商売をしました。横浜では、みそを包む竹の皮や石炭を売ることから始め、セメント会社をつくるなど、事業をしだいに大きくしていきました。



浅野總一郎 (1848年～1930年)

その大きな事業のひとつが、鶴見(横浜)や川崎の海のうめ立てです。500ha(ヘクタール)もの新しい土地をつくる計画をたて、イギリスからサンドポンプ船(どろやすなを水といっしょにポンプでいあげる船)を輸入して、うめ立てをしました。新しい土地には大きな工場が立ちならび、京浜工業地帯のもととなりました。



始めのころ (1914年) のうめ立ての様子 (横浜市) (横浜開港資料館所蔵)



電気サンドポンプ船によるうめ立ての様子 (横浜市) (横浜開港資料館所蔵)



神奈川県立歴史博物館



横浜市歴史博物館



横浜開港資料館

〔6〕 民主主義と平和に一生をささげた尾崎行雄(尾崎号堂※)

尾崎行雄は、明治～昭和時代に活やくした政治家で、1858年に相模国(今の相模原市)で生まれました。

1890年の第1回選挙から連続25回当選し、94さいまで63年もの間衆議院議員をつとめました。94さいは日本最年長記録であり、この記録は今もやぶられていません。政治を長い間ささえたことから、「憲政の神様」「議会政治の父」とよばれています。

尾崎行雄は戦争であれたヨーロッパをおとずれた経験から、戦争のつらさを学び、平和の大切さを伝え続けました。日本が戦争中であっても、戦争を行う軍に反対する演説を行いました。

尾崎行雄をたくさんの人に知ってもらうため、尾崎行雄が生まれた相模原市緑区の尾崎家代々の屋しきあとに、「尾崎号堂記念館」が建てられました。

※本名は尾崎行雄ですが、本を書く時には「尾崎号堂」という名前を使っていました。



尾崎行雄(1858年～1954年)



尾崎号堂記念館(相模原市緑区)



演説をする尾崎行雄

5 歴史と伝統が育てた地域産業

神奈川県には、海に面した地域、森林が広がっている地域、武士の時代に政治の中心となった地域、外国との交流がさかんな地域など特色のある地域があります。地域の特色や歴史のいきょうを受け、昔からさかんな産業が県内にあります。



(県産業労働局)

かまくらぼり  
**(1) 鎌倉彫**

800年前に中国のえいきょうを受け、仏像や仏具に使われる彫刻とうるしぬりのぎじゅつから生まれた工芸品です。

カツラの木が主に使われ、草花のもようが力強くほられ、落ち着いた色のうるしぬりが持ちょうです。

古くはお寺で使う仏具が主に作られていましたが、茶の湯がさかんになると、茶道具として広まり、今ではおぼんやお皿などの日常生活品も作られています。作品を作るのに1か月以上かかります。カツラの木の不足により、大きな形のものが手に入りにくくなっています。古いぎじゅつを受けついで、鎌倉市を中心に作られています。



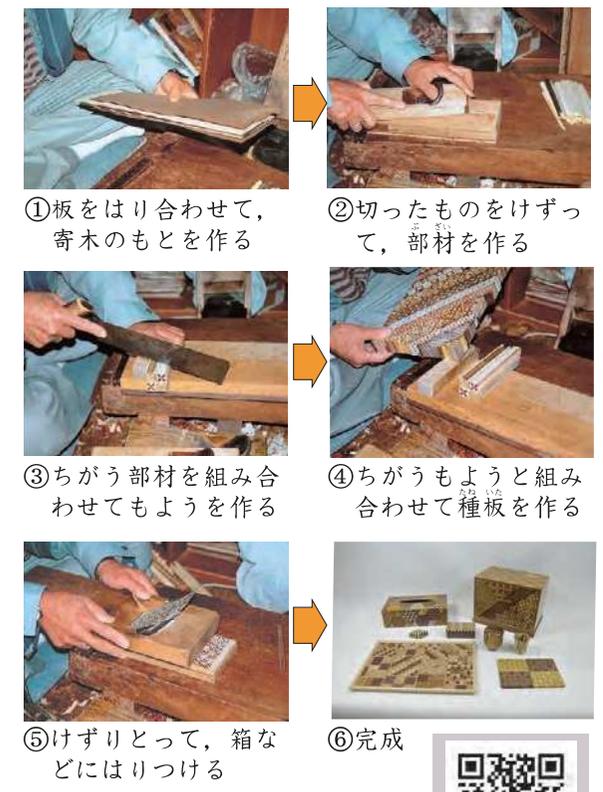
**鎌倉彫職人三月さんのお話**

工芸品には工程ごとにちがう人が手分けして作るものもありますが、鎌倉彫では、自分の作品として発表する場合、はじめから終わりまで全て自分で仕上げる事が多く、それもみりよくの一つです。見た人がわたしの作品だと気づいてくれるような作品づくりを心がけています。鎌倉彫をもっともり上げていくために、伝統的なものだけでなく、今の生活にあった新しい商品も作っていきたいと思っています。



はこねよせぎざいく  
**(2) 箱根寄木細工**

木が持つ自然の色、木目を生かして、カツラやミズキ、サクラなどちがう色の多くの木を組み合わせてもようを作っているのが持ちょうで、おぼんや小物入れなどが作られています。江戸時代の末期ぐらいに石川仁兵衛という人が、静岡からこのぎじゅつを持ち帰り、箱根の畑宿で作られるようになったと伝えられています。箱根の山は木の種類が豊富にあったことや、東海道を行き交う人、箱根への温泉客の増加により、おみやげとして生産が活発になりました。時代とともにぎじゅつが開発され、ちみつでさまざまなもようのものが、箱根町や小田原市で作られています。

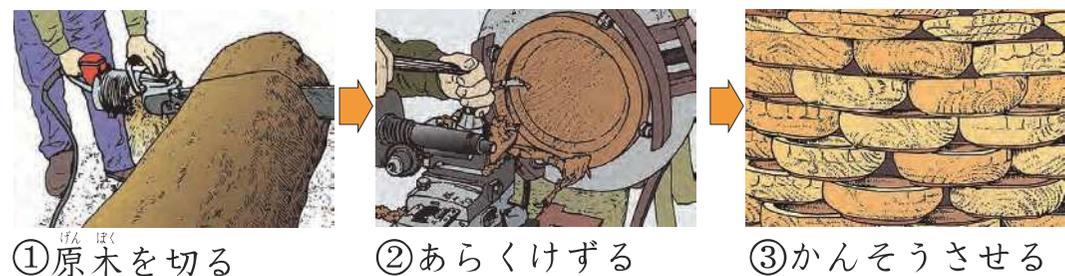


**寄木細工職人露木さんのお話**

子どものころ、24色の色えんぴつや色絵の具セットの美しさに、どんな絵をえがこうかとワクワクしたことを今でも覚えています。寄木細工は、げんざい、世界中の木々の色合いのゆたかさと木目の美しさを生かして製作しています。子どものころのワクワク感をわすれずに、工芸品としての新しさと同時に、その芸術性をいつも追求して、寄木細工を作っています。

### (3) 小田原漆器

600年前から伝わる<sup>こうげいひん</sup> 工芸品です。木材の表面をうるしで<sup>もくざい</sup> こそすりつけ、自然の木目を生かしているのが<sup>とく</sup> 持ちようです。この<sup>ほう</sup> 方法で、おぼん、おわん、お皿が作られています。小田原市を中心に作られています。



①原木を切る ②あらくけずる ③かんそうさせる



④ろくろを使い加工する ⑤うるしでこそすりつける ⑥完成



小田原市  
(小田原漆器)

### (4) 横浜スカーフ

1873年の<sup>ばんこくはくらんかい</sup> ウィーン万国博覧会や、1880年のメルボルン万国博覧会へ<sup>きぬ</sup> 絹のハンカチを出品したのをきっかけに<sup>さかん</sup> 作られるようになりました。

図がらをプリントする<sup>せ かい て き</sup> ぎじゅつは世界的に高く、ていねいな仕上げが持ちようです。



はくぶつかん  
シルク博物館



①型を作る ②なっせん(図がらをプリントする) ③機械による水あらい



④一枚ずつ切る ⑤ミシンぬい ⑥完成

### (5) 半原の繊維

およそ200年前に<sup>はっしょうしきねん し き</sup> 八丁式撚糸機を取り入れたのが、<sup>あいかわまち</sup> 愛川町の半原でより糸を生産するようになった始まりです。八丁式撚糸機は水の力を使い、短い時間でたくさんの糸をつくれるのが持ちようです。

そして、<sup>げんざい</sup> げんざいでは、より糸からぬい糸(ミシン糸)へ<sup>はってん</sup> 発展し、ネクタイなどの<sup>せいひん</sup> 繊維製品も作られています。



八丁式撚糸機



レインボープラザ  
あいかわせんいけん  
(愛川繊維会館)



①生糸・合繊糸(糸の原料) ②糸をよる ③糸をそめる



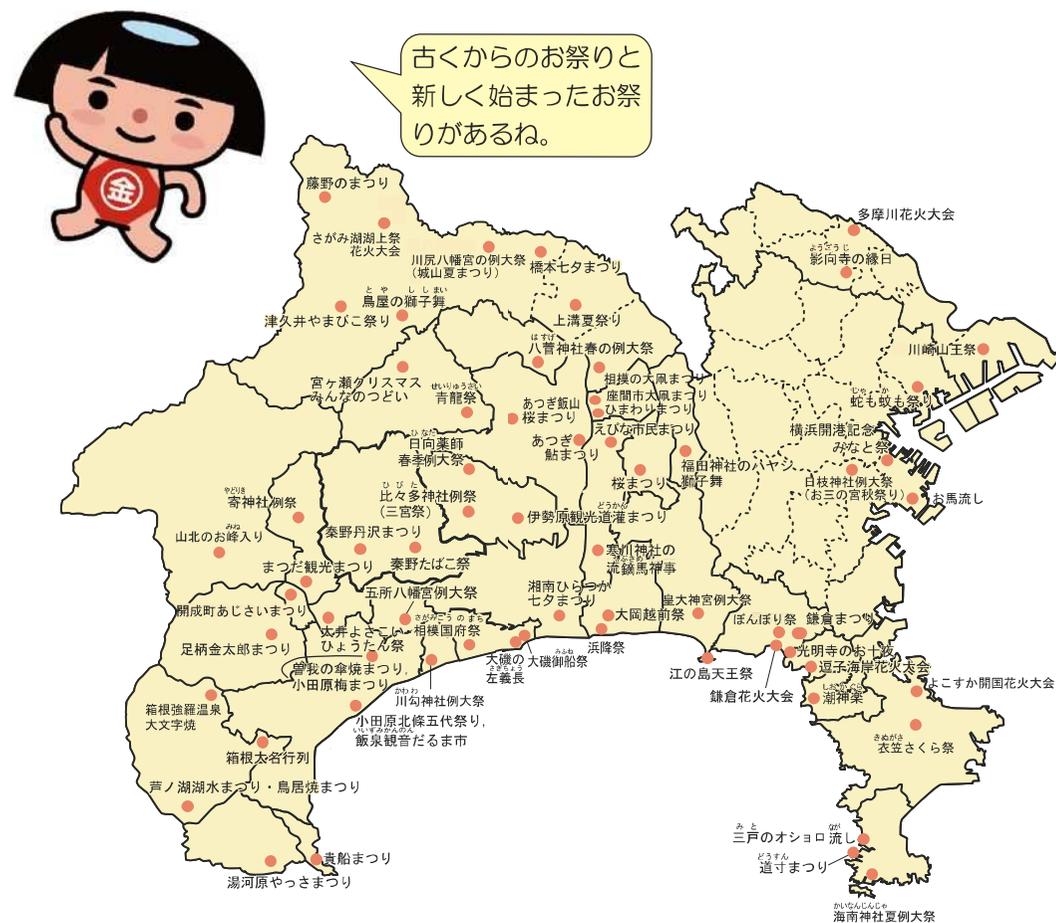
④製品にするため ⑤自動仕上げライン ⑥さまざまな製品

いとま 糸巻きにまきとる ほうそう (包装する)

(1) 見に行こう神奈川県かながわけんの祭り

「はまおりさい浜降祭」「おおだこ大凧まつり」「きぶね貴船まつり」などは古くから伝わる祭りです。昔の人が信じていたものや願いが祭りという形で今に伝えられています。

「よこはまかいこうきねん横浜開港記念みなと祭」「しょうなん湘南ひらつか七夕まつり」「はこねだ箱根大名行列」などはその地域の発展を願い、商業などをさかん5にするために行われるようになった祭りです。



横浜開港記念みなと祭 (5月)

横浜の港が開かれたことを祝う祭りです。ざよこはまパレード(国際仮装行列)は、70年以上の歴史をほこり、大きなフロートやマーチングバンドが参加するはなやかな祭りです。



相模の大凧まつり 座間市大凧まつり (5月)



こどもの日を祝う祭りです。江戸時代から続く伝統行事です。大凧は同じはっぴを着た100人以上の人によって、大空へあげられます。

湘南ひらつか七夕まつり (7月)



平塚駅前ひらつかまきまの商店街を中心に高さ5メートルをこえるさまざまな七夕かざりがかざられ、七夕かざりのトンネルができます。さまざまな産業が元気になることや、全国の方々に「平塚」を知ってもらうことを願って、開きしています。

貴船まつり (7月)

全国に知られた船祭りです。船に神様をおうつしすることにより、漁業の大漁と安全を願い、また、無事にすごせることへの感謝をあらわします。ごうかにかざりつけられた船が真鶴港から出ます。2日間にわたり行われる祭りです。



浜降祭 (7月)



(茅ヶ崎市提供)

寒川神社さむかわじんじやをはじめ、寒川町、茅ヶ崎市内にある大小合わせて40基をこえるみこしが朝早くに茅ヶ崎西浜海岸に集まります。そして、みこしを清めるために、海の中にかつぎこまれます。

大井よさこいひょうたん祭 (8月)



かんこうきやく観光客がおとずれる町内一の祭りです。

大井町おおいの特色や歴史・風土を反映させた「よさこい踊り」を中心に、「ジュニア&キッズダンスフェスティバル」が行われ、町内外から多くの踊り参加者やるために、海の中にかつぎこまれます。

川崎山王祭 (8月)

毎年8月上旬に盛大に行われる稲毛神社いなのげじんじやの祭りです。神様の結むすこんと誕生を表す祭りで、「孔雀」「玉」とよばれる男女のみこしが町を練り歩くのが特ちょうです。



箱根大名行列 (11月)



江戸時代の大名の参勤交代の行列をさいげんしています。170名がその当時の衣装で行列し、箱根湯本を一回りします。

小田原梅まつり (2月)

約35,000本の梅の花がさく曾我梅林と、約250本の梅がさく小田原城址公園で開きされます。



梅の花を見るだけでなく、地元の食べ物やしんまいのおどりも楽しめます。



自分の住んでいる地域のお祭りを調べてみよう!

【(2) 祭りにたずさわる人たち】

祭りは開さいする人だけでなく，その地域に住んでいる人の力でも成り立っています。祭りにたずさわる人たちがどのような想いで祭りをつくっているのを見てみましょう。

鎌倉まつり（4月）



つるがおかはちまんぐう  
鶴岡八幡宮を中心に鎌倉市内でさまざまなもよおしが行われます。

特に、鶴岡八幡宮で行われる「静の舞」や、鎌倉武士のかつこうをして馬に乗り矢を放つ、「流鏑馬」が有名です。

鎌倉まつりにたずさわる  
鎌倉市観光協会 稲田さんのお話



鎌倉まつりは春の鎌倉を代表するお祭りです。中でも、静の舞は、鎌倉時代、源頼朝の命令で京都で有名な静御前が愛する源義経のために舞ったと伝わります。

2022年に放送された大河ドラマ「鎌倉殿の13人」(NHK)の中でも、静の舞のシーンがありました。このような歴史や文化、伝統芸能は、鎌倉まつりのみりよくの一つであり、これからも続けていけるように取り組んでいきたいです。

相模国府祭（5月）

大磯町内で平安時代から続くと言われている伝統ある祭りで、6つの神社がともに行います。神揃山と大矢場（馬場公園）でみこしや座問答、ちまきなどさまざまな行事が行われています。



座問答の様子



ひびた比々多神社（相模国府祭）

祭りに向けての準備

草かり

みこしが通る神揃山の道の草かりをします。地域の方が協力し、2時間ほどで作業を終えました。



ミゴづくり

ミゴとはわらのしんをぬき出したもので、ちまきのたわらに使われます。ミゴづくりは一年ごとに代わる当番の地域の方が行います。20人ほどの地域の方が参加し、8,000本ものミゴをつくりました。



①わらを根元から切り、節の上をはさみで切る。



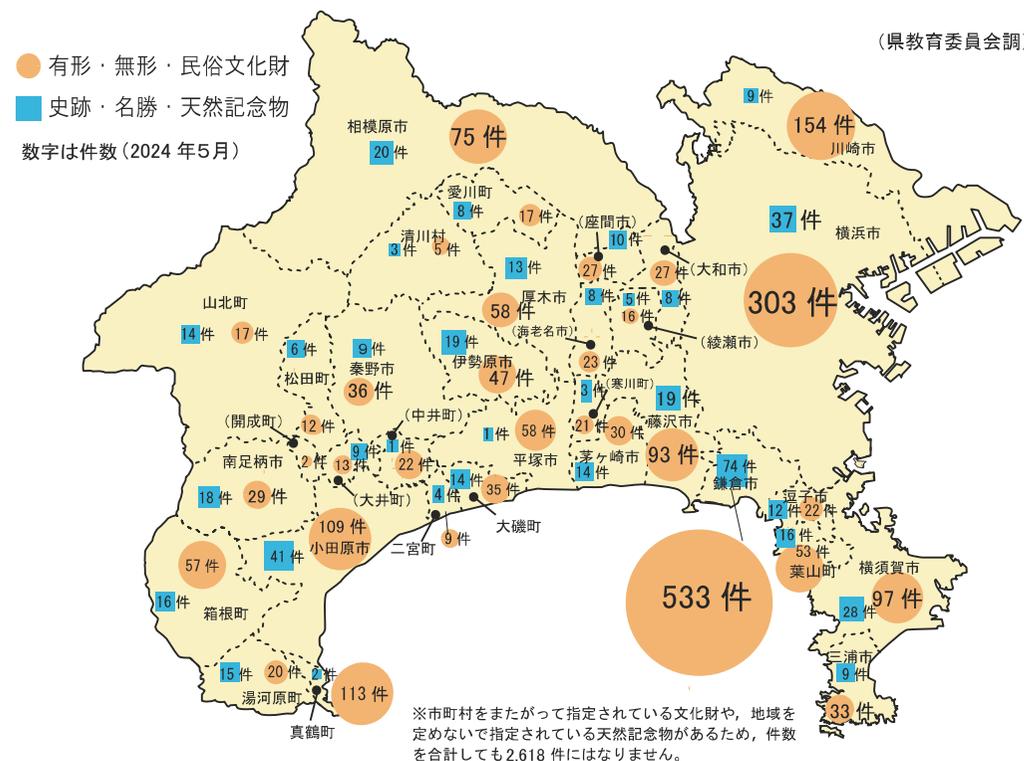
②穂先の部分をひっぱり、ミゴをぬき取る。



③ミゴを100本束ねて、輪ゴムでしばる。

【(3) 残したい神奈川県文化財】

神奈川県にはわたしたちが守ってきたさまざまな文化財がたくさんあります。2024年(令和6年)げんざいで2,618件が国、県、市町村に指定され、そのうち19件が国宝です。



さがみこくぶんじあとえびなし  
相模国分寺跡(海老名市)  
国指定 史跡(記念物)



奈良時代(約1,300年前)のお寺のあとで、げんざいは、七重の塔の土台がふくげんされています。海老名市温故館には、お寺のふくげん模型がてんじされています。

(海老名市教育委員会提供)



かつさかいせき さがみはらし  
勝坂遺跡(相模原市)  
国指定 史跡(記念物)



縄文時代(今から約5,000年前)の村のあとです。当時の家のあとがたくさん見つかりました。げんざいは公園として、ふくげんされた家を見ることができます。

(相模原市教育委員会提供)

きゅうよこほましようきんぎんこうほんてんほんかん  
旧横浜正金銀行本店本館(神奈川県立歴史博物館)  
国指定 建造物(有形文化財) (横浜市)  
国指定 史跡(記念物)



1904年に横浜正金銀行本店として建てられました。げんざいは神奈川県の歴史の理解を深めるための資料や、昔のものをさいげんした模型がてんじされています。

(神奈川県立歴史博物館提供)

おだわらじょう  
小田原城跡(小田原市)  
国指定 史跡(記念物)



1500年ごろに築かれた、関東の中でも最大規模のお城です。小田原城はほとんどがこわされ、残っていた石がきも1923年の関東大震災でくずれ落ちてしまいました。げんざいは、ふくげんされたお城のすがたを見ることができます。

きょうかい かつまた  
小田原ガイド協会会長勝俣さんのお話



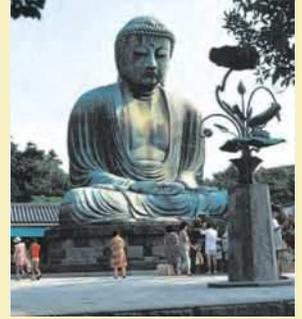
私たちは、江戸時代のすがたにふくげんされた小田原城や、豊臣秀吉が北条氏をせめるために築いた一夜城の伝説をもつ石垣山城跡など、小田原の史跡やみどころを毎日ガイドしています。最近では、城下町小田原や東海道五十三次最大級の宿場町としての小田原の歴史とまちなみの今を勉強しながら歩くコースが人気です。ぜひ、みなさんも小田原の歴史や文化にふれてみてください。

みうらし  
チャッキラコ(三浦市)  
国指定 民俗芸能(無形民俗文化財)



チャッキラコは、三浦市三崎の花暮、仲崎地区で毎年1月に行われる伝統行事です。少なくとも約300年前から続いているとされ、2009年にはユネスコ無形文化遺産に登録され、2022年には「風流踊」として改めて拡張登録されました。大人の女性が歌を、4・5さいから12さいくらいまでの女の子が舞を神前で奉納し、その後旅館や商店でひろうすることで、正月を祝い一年の豊漁、商売はんじょうなどを祈ります。

こうとくいん どうぞうあみだによらいざぞう かまくらし  
高德院 銅造阿弥陀如来坐像(鎌倉市)  
国宝 彫刻(有形文化財)



鎌倉の大仏として知られています。台座を除いた高さは約11mで、つくられた当時(1260年ごろ)のすがたを今もよく残しています。また、鎌倉市内にはこの鎌倉の大仏のほかにも、多くの国宝があります。この鎌倉の大仏をふくむ鎌倉の歴史的文化財を世界遺産へ登録するためのじゅんぴが、げんざい進められています。

さがみ しばい あつぎし  
相模人形芝居(厚木市)  
国指定 民俗芸能(無形民俗文化財)



相模人形芝居は、江戸時代中ごろ(今から約300年前)に始まったと言われています。鉄砲をうつようなしせいで人形を持つ「鉄砲差し」と、主遣い(頭と右手を動かす)・左遣い(左手を動かす)・足遣い(足を動かす)の3人が協力して1体の人形をあやつる「三人遣い」が特ちょうです。

相模人形芝居にたずさわる  
相模人形芝居林座座長葉山さんのお話



相模人形芝居は昔からの物語をたくさんの人形でお芝居しています。昔の人は、テレビやインターネットがない時代に、「なにか楽しいことをやろう」と、たくさん、たくさん考えて、いろいろなことをしていました。私たちは、昔の人がやっていたそのような楽しいことを、今の時代にも伝えていくために活動しています。

